

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校のユネスコスクールとしての活動は、以下の3本の柱で成り立っている。

1つ目は1, 2年生の在校生徒全員を対象に行っている総合的な学習である。教科横断的にESDをテーマとして年間を通じて授業を行っている。1年生は1単位の授業で9名の教員が担当した。前期はESDの基本的な考え方と、世界の諸問題の理解を中心に授業を進めた。世界の諸問題の理解では、貧困や紛争、エネルギーなどを取り上げ、4教科9名の教員が協力して、教科の特性を残したクロスカリキュラの形で行った。夏休みには課題図書を読ませることによって問題意識を育てた。後期は、途中韓国サンダン高校との学びの交流を経て、最終的にはグループによる課題研究を行い、ポスターセッションによる発表を行った。班別の発表会に向けて、課題探求の資料の収集、問づくり、議論などを行った。2年生は2単位の授業を5教科8名の教員で進めた。前期は、前年度春休みの宿題にしていた個人研究の発表と、学校内の身近なESD阻害要因を取り上げて解決策を考えるアクティビティーなどを行った。後期は北海道修学旅行を利用した北海道ESD課題研究と、グループによる課題研究を行いポスターセッションによる発表を行った。

2本目の柱は毎年行っている韓国サンダン高校との学びの交流である。2016年度は4泊5日の日程でサンダン高校生8名と教員2名が本校に来校し、交流した。交流初日には空港に迎えに行った10名の生徒とともにコリアタウン・フィールドワークに出かけ、また大阪の街の散策などを行った。2日目は学校での歓迎会や文化交流・学校紹介のプレゼン交換の後、本校の2年生ESD総合学習の成果を発表し共有した。また2年生総合Ⅱの2時間を使い、日韓のゴミの意識を話し合うディスカッションを行った。3日目は本校生とともに京都に出かけ、終日世界遺産学習とした。4日目は、1年生の総合Ⅰの時間2時間で日本文化紹介を中心に交流した。最終日はフェアウェルパーティーでこれまでの交流を振り返り、サンダン高校生は帰国の途に就いた。上記以外にも日本史、家庭科、体育などの授業参加や、ユネスコ部や茶道部との交流、さらには2日間のホームステイ家庭との交流など充実した活動を行った。

3本目の柱は大阪ASPnetを中心とした関西のユネスコスクールでの学びである。2016年度は大阪ASPnetの小中高生達が韓国、中国の小中高生を迎え、ESDをテーマに交流を行った。本校からは2名の生徒が参加した。参加した生徒は学校に成果を持ち帰り、全校生徒に報告し、また次の総合学習に繋げている。そこには交流を経験して卒業した大学生達も企画運営に参加している。また、交流を経験した元生徒が教員になり、生徒を引率している高校教員も2名いる。ESDの学びが世代を超え、立体的に拡大充実しているのを実感する場となっている。

また、学校としての取り組みではないが、ユネスコ部が中心になり、ワンワールドフェスティバルのお手伝いなど外部の催しにも積極的に参加している。校内では、文化祭で展示を出し、フェアトレードバナナの販売等、啓発活動を行った。また、ペットボトルキャップ集めや、ベルマークの収集も日常的に行っている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）